

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 61 号

2016 (平成28) 年4月16日 (土)

の ひと はいご たくわ ふか 伸びる人——背後の蓄えが深い

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

いよいよ新学期がスタートしました。小・中・高に入学した人、そして各学年に進級した人、それぞれいると思います。新しい友達との出会いを大切に、一日も早く自分のおかれている環境に慣れることを願っています。

本塾にも新しい仲間を迎えました。皆さんが心をひとつにし、孔子先生が説かれた「仁」(思いやり)と「礼」(礼儀作法)の精神を共に学んでいきましょう。

北大寺の本堂に入出する際には一礼する、トイレのスリッパは次の人が履きやすいように揃える、お話しする時は相手の目を見て話す。あたり前のことを、あたり前のこととして自然に振る舞える塾生をめざしてほしいと思います。

ところで最近、こんな話をよく聴かされることがあります。「先生、うちの子はさっぱり成績が伸びないのです。能力がないのでしょうか」と。

成績が伸びる人には、必ず伸びるだけの理由・背景があるのです。たとえば言うならば、成績とはこんなものではないかと思うのです。

桶に水を入れていきます。少しずつ入れていきます。やがて、桶の中にはいっぱいの水が蓄えられます。そして、水は溢れ出てきます。その「溢れ出てきたもの」が成績なのではないでしょうか。

つまり、水とは勉強の練習量であり、「溢れ出る水」が成績なわけです。勉強の量を増やし、中身を濃くしていく努力を少しずつ積み重ねていけば、必ずや、人間の頭の中の桶に考える力の基となる知識が蓄えられ、やがて溢れ出てくるものです。

蓄えが深ければ深いほど、大きく伸びていく基盤が形成されていくわけです。ですから、成績が伸び悩んでいる人は、表面的に成績のことだけを考えるのではなく、もっと自分の内面を見つめ、自分は蓄えあたる勉強をしているのかと、考えてもらいたいのです。

その場しのぎの勉強は、なんの蓄えにもならないことを悟らねばなりません。

塾生の皆さんには、テストの成績に表面的に振り回されることなく、少しずつではあっても、じっくり桶の中に水を蓄えていってほしいと願っています。

伸びる人-----それは、背後の蓄えが深い人のことを言うのです。

- 注-
- ・桶とは、水を入れて食器などを洗う容器のこと。例→洗い桶、風呂桶(浴槽)
 - ・蓄えるとは、ためておく、身につけておく、集めておく、ことを意味します。

◆お詫びと訂正

先月渡した「論語教室だより」(第60号)の新田塾長が書いた文章で、「こどもの声発表会」に参加した塾生の中に、渡邊春太郎君の氏名を書き落しましたのでお詫びし訂正させていただきます。